

# 橋梁架け替え事業のまちづくり的展開の分析 -宮崎市の小戸之橋を題材として-

熊本大学工学部 学生会員 ○矢野 竜士  
熊本大学工学部 正会員 増山 晃太

熊本大学大学院 正会員 星野 裕司  
熊本大学大学院 学生会員 尾野 薫

## 1.はじめに

### 1.1 背景

図1に示すように今後、10年、20年と経つにつれ、築後50年を超えた橋梁の数が全国的に増加していく。

また、社会インフラ更新への社会的背景として、社会インフラ維持管理・更新検討タスクフォースは、多くの社会インフラに対しては、点検・診断、健全度判定、更新の判断等の法的・制度的な義務付けが不十分なため、維持管理・更新に関する必要な財源が確保される仕組みが出来ていないと指摘している。

一方、地方都市の現状として、国土交通政策研究所は、中心市街地の空洞化や地域産業の低迷、若年人口の流出などのさまざまな問題が生じていると指摘している。

上記を踏まえて、地方都市である宮崎市の小戸之橋では、橋梁架け替え事業とともに、まちづくり的展開も議論されている。



図1 築後50年を超えた橋梁の推移

### 1.2 目的

小戸之橋架け替え事業を対象として、インフラ更新事業が有するまちづくり的可能性を検証し、必要要件等を抽出する。そのために、以下に示す3項目を達成する。

- (1) 小戸之橋架け替え事業の実態を把握する。
- (2) 小戸之橋架け替え事業全体の効果を把握する。
- (3) (2)と(3)を踏まえ、今後のまちづくり的展開について考える。

## 2.研究対象

### 2.1 研究対象地の概要

宮崎市は、九州の太平洋側に位置する宮崎県の県庁所在地であり、人口は約40万人である。小戸之橋は、宮崎駅東一丁目から大淀川を渡河し、大字田吉宇赤江に至る総延長3,870m市の北部と南部を結ぶ幹線道路である昭和通線

内に位置する橋梁である。



図2 対象地の位置

### 2.2 小戸之橋架け替え事業

昭和通線のうち、小戸之橋を含む前後の区間は宮崎都市圏の内環状を構成する重要な路線となっている。しかし、2013年において、小戸之橋は以下に示す5つの問題を抱えている。

- (1) 建設後約50年が経過し、老朽化が著しい
- (2) 昭和52年より大型車の通行規制をしている
- (3) 平成16年より台風時の通行止めをしている
- (4) 橋脚が多く、河川を阻害する割合が大きい
- (5) 片側歩道で、歩行者及び自転車の安全が確保されていない

このため、宮崎内環状線の機能の確保と、小戸之橋の老朽化に伴う交通規制の解除を行い、良好な歩行者・自転車空間ネットワークの形成を図るためにもその区間の整備が実施されることとなり、小戸之橋の架け替え事業が実施されることとなった。

事業のスケジュールは、2013年11月1日から小戸之橋を全面通行止めとし、新しい橋が完成する2021年3月まで小戸之橋は利用できなくなるというものである。

また、2013年11月2日に小戸之橋で行われる「ありがとう小戸之橋さよならフェスティバル(以下、イベント)」が行われた。

### 3.小戸之橋架け替え事業の実態

#### 3.1 プロセスの概要

熊本大学や宮崎大学の教授などの学識経験者、各自治会の会長や県や市の行政のメンバーで昭和通線(小戸之橋)

技術・景観検討委員会が結成された。昭和通線(小戸之橋)技術・景観検討委員会が5回実施された後に、住民参加のWSが報告会もあわせて4回実施された。

また、各地域の自治会長やまちづくり推進委員を中心とした実行委員会、市や熊本大学や宮崎大学の教授などの学識経験者を中心とした小戸之橋さいせい委員、宮崎文化本舗のメンバーを中心とした事務局などをあわせて、ありがとう小戸之橋実行委員が結成された。

### 3.2 小戸之橋架け替え事業の特殊性

小戸之橋架け替え事業はいままでに行われてきた橋梁架け替え事業と比べ、特殊な点がいくつかある。

まず、4回(2009年6月30日、2009年8月7日、2009年10月8日、2010年6月30日)昭和通線WSを行っていることから住民と設計者が一緒にデザインの議論を行っていることが挙げられる。

次に、橋梁の架け替えが7年半と長期間に及ぶが、仮橋を設置しないことが挙げられる。そのため、事前の広報活動が重要となり、イベントなどが行われた。そのイベントをきっかけとして、新しい橋が完成するまでの期間にその後にも繋がる新しいまちづくり活動が議論されていることが挙げられる。



図4 イベントでのこども神輿

### 3.3 イベントの内容と意義

イベントは2013年11月2日に行われた。橋梁の上でのイベント、風船飛ばしや軽トラ市、河川敷に設置されたステージでのイベント、橋上の花火や渡り納めなど、多くのプログラムが組まれた。

イベントは「50年の長きにわたり市民の交通に利用されてきた小戸之橋への感謝を示す機会を設けるとともに、宮崎市小戸之橋の架替工事に伴う通行止めおよび迂回路等の周知を徹底する。」「新しい橋が完成するまでの期待と願いを込めたイベントを開催することで、地域の住民の記憶に残ると

同時に新たな地域づくりのあり方を市民と共有する。」と2つの目的を持って行われたが、周辺にある八坂神社のこども神輿の復活やTV番組で小戸之橋が舞台に選ばれるなど、小戸之橋が通行止めとなったことの認知度や橋梁への関心が高まっていることがうかがえる。

## 4.小戸之橋架け替え事業の効果

### 4.1 事業をきっかけとした活動

小戸之橋実行委員の各自治体のまちづくり推進委員の方にヒアリング調査を行い、小戸之橋架け替え事業をきっかけに復活した行事やこれから新しく考えられているまちづくり活動について整理・考察する。

### 4.2 イベントによる意識変化

12月16日に行われたありがとう小戸之橋実行委員会において、宮崎市が小戸之橋実行委員に対して実施したアンケート調査と、筆者が小戸之橋の周辺住民に対して実施したアンケート調査の2つの結果を用いる。この結果から、イベントを受けて小戸之橋に対してどのように意識が変化したのかについて整理・考察する。

### 4.3 通行止めによる生活変化

筆者が小戸之橋の周辺住民に対して実施したアンケート調査を用いて、小戸之橋が通行止めとなったことで、周辺住民の交通形態や買い物を行う場所がどのように変化したのかについて整理・考察する。

## 5.小戸之橋架け替え事業のまちづくり的展開について

以上の結果から、小戸之橋架け替え事業がまちづくりに結びついていると結論づける。さらに必要要件等を抽出し、今後の社会インフラ更新事業の一助を得る。

### 【文献リスト】

- 1) 公共社団法人土木学会社会インフラ維持管理・更新検討タスクフォース(2013)「社会インフラ維持管理・更新の課題についての対処戦略(案)」
- 2) 国土交通省国土交通政策研究所(2002)「地方都市の新生・再生に向けて-七名の有識者による地方都市問題解決への証言-」
- 3) 宮崎市の人口・世帯数(各月1日現在の推計人口), <http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/www/contents/1208478606765/index.html>, (2013/12/6 取得)
- 4) 宮崎市都市整備部市街地整備課(2008)「昭和通線(小戸之橋)技術・景観検討委員会報告書 2007-2008」
- 5) 宮崎市都市整備部市街地整備課(2010)「昭和通線(小戸之橋)ワーキンググループ報告書 2009-2010」
- 6) ありがとう小戸之橋実行委員会(2013)「ありがとう小戸之橋さならフェスティバル報告書(案)」